

# 白羽神社本殿



よみ  
指定  
種別  
数量  
所在地  
所有者  
指定日

しろわじんじゃほんでん  
市指定有形文化財  
建造物  
1棟  
御前崎市白羽  
白羽神社  
昭和44年6月25日



繁虹梁の暮股



白羽神社拝殿・本殿

## 詳細情報

構造

入母屋流造向拝付柿葺  
(いりもやながれづくりこうはいつきこけらぶき)  
間口3間・奥行2間

## 解説

白羽神社の創建年代は、社伝によると現在の駒形神社の社地に仁明天皇承和元年(834)二月に鎮座し、その3年後に現在地に移ったと伝えられています。この白羽神社は、律令期(奈良～平安時代)にあった白羽官牧と関係の深い神社のひとつと考えられます。

本殿の構造は、入母屋造で、一般の流造社殿で向拝(庇)に相当する所も主屋の中に取込まれており、吹放しになっているのに、小組格天井が張られ、その部分の妻に繁虹梁を入れ、暮股によって桁下の通肘木を支えています。これは一般的に余り見られない手法です。

中備暮股を柱間毎に配し、前面の虹梁(頭貫も虹梁形)の渦、若葉もしっかりしており、両端も挿肘木で受けるなど、はなやいだ雰囲気を作り出しています。

なお、軒から下は覆屋に囲まれています。